

(47)

氏名(生年月日)	高橋 義徳
本籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第1125号
学位授与の日付	平成2年10月19日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	ベーチェット病のフルオレセイン静注法による房水動態の研究
論文審査委員	(主査) 教授 内田 幸男 (副査) 教授 降矢 熒, 内山 竹彦

論文内容の要旨

目的

ベーチェット病(以下B病)の血液房水柵の障害と病態の関連を临床上、血液房水柵の障害を定量的に示す指標から検討し、解明することを目的とした。

方法

対象はB病25例47眼、これと性、年齢分布の等しいコントロール16例32眼である。フルオレセイン(以下フルオ)10mg/kgを静注後、蛍光虹彩撮影を行うとともに、Fluoromet Model 120を用い静注前10分、静注後10、30、60、90、120分の前房内フルオ濃度(Fa)の測定を行った。同時に血漿中蛋白非結合フルオ濃度(Fp)を測定し、血液房水柵の透過性の指標となる虹彩透過性係数(kdpa)を求め、これとFa/Fpとを比較した。検査は眼発作後1週間以上経過した寛解期を選び施行した。

結果

B病もコントロールもkdpaとFa/Fpの間に有意な正の相関がみられ、Fa/Fpは臨床的に応用可能な血液房水柵の定量的指標となり得るものと考えられた。B病のkdpa、Fa/Fpはともにコントロールに比し有意に高値を示し、B病の中で蛍光虹彩撮影で漏出のあったものはFa/Fpが高値を示した。房水流量係数Kfaは寛解期のB病とコントロールで著しい差がなかった。同一症例で眼発作後、時間が経過するほど、Fa/Fpは低下していた。B病群全体で眼発作後、Fa/Fpは次第に低下し約1カ月するとほぼ一定の値をとった。B病の眼発作の多いものが、少ないものよりFa/Fpは高値であった。

結論

血液房水柵の透過性の指標としてkdpaのかわりに、臨床的にFa/Fpが簡便かつ有用であり、血液房水柵の障害の程度はFa/Fpに反映されていた。Fa/Fpはフルオ静注後60分の値が安定していた。B病のkdpa、Fa/Fpはコントロールに比し有意に高値を示し、B群では眼症の寛解期においても血液房水柵に障害のあることが示唆された。定量的なFa/Fpの値と、定性的検査法である蛍光虹彩撮影の所見とはよく一致していた。本症の眼病型別では網脈絡膜炎型が虹彩毛様体型に比べて有意に高いFa/Fp値を示し、Fa/Fpは臨床的な重症度の把握に適していた。眼発作後の経過日数とともに約1カ月までFa/Fpに低下がみられ、B病の血液房水柵の障害には眼発作の経過とともにある程度の改善がみられた。検査施行前1年間の眼発作回数が多いほどFa/Fpの値は高く、B病の血液房水柵の障害の程度は眼病変の重症度を反映していた。Fa/Fpは治療薬の選択や予後を判断する手段としても有用であった。

論文審査の要旨

本論文はフルオレセインを静注し、前房水のフルオロメトリーを行い、血液房水柵の機能の定量的表示を検討したもので、ベーチェット病では眼病変の重症度を反映することを明らかにし、本法が治療法の選択や予後の判定に有用なことを証明した学術上価値ある論文である。

主論文公表誌

ベーチェット病のフルオレセイン静注法による房水動態の研究

東京女子医科大学雑誌 第60巻 第6号
462-475頁 (平成2年6月25日発行)

副論文公表誌

- 1) ベーチェット病の前眼部フルオロフォトメトリー
日眼会誌 90 (2) : 238-242, 1986
- 2) 難治性ベーチェット病のシクロスポリン療法
—その効果と副作用について—
臨眼 42 (6) : 710-711, 1988
- 3) 難治性ベーチェット病のシクロスポリン療法に

おける検査値の推移とシクロスポリン血中濃度の検討

臨医薬 6 (5) : 1057-1066, 1990

- 4) ベーチェット病眼症に対するコルヒチン療法の特徴
眼臨医報 79 (12) : 2206-2213, 1985
- 5) ベーチェット病長期観察例における血中免疫複合体の動向
日眼紀 37 (12) : 1693-1697, 1986
- 6) Behçet 病患者の血中 Acid soluble protein
眼臨医報 82 (2) : 217-222, 1988
- 7) 眼サルコイドーシスの眼所見と活動性
Jpn J Sarcoidosis 8 (11) : 83-84, 1988